

解 説

本書は、2012年3月に日本語訳で刊行された『Taking the Lead：カナダ発女性コーチの戦略と解決策』のダイジェスト版である。原本はカナダの学識者11名による「女性コーチのためのカナディアン・ジャーナル編集委員会」が約10年間の蓄積をもとにまとめ上げたものである。第1部では女性コーチや女性リーダーが直面する問題点を述べ、第2部・第3部ではどのように問題を解決したらよいのか、数的な根拠や具体的な例を用いてその解決策をアドバイスしている。また、各章は独立した構成となっているため、順番に読む必要が無く、その時々に応じて読者が必要とする章から読み進めることができるのもありがたい。

第1部では、ハラスメントの問題提起のほか、これまであまり記されてこなかったコーチング現場におけるホモフォビア（同性愛嫌悪）をなくすための共通認識や実践的な解決策が提案されている。また、第1部の第1章で女性リーダーのロールモデルとなる、指導と家庭を両立しながら活動する5名の指導者を紹介しているのも、編者のメッセージととらえられる。日本に置きかえた場合、指導者と母親を両立している女性コーチの名前をすぐにあげることはできるだろうか。

第2部では、女性リーダーが身につけるべきスキルを紹介している。コミュニケーションスキルはもちろんのこと、メンタリングという指導方法のひとつも紹介されており、指導者（メンター）とメンタリングを受ける人（プロテジェ）について、具体的な方法やその効果が示されている。また、現状の女性リーダーの立場・環境を改善するために必要な、アドボカシーという意見や権利を主張する行為についても詳しく紹介されており、多くの女性リーダーがアドボカシーを理解し、今後アドボケーター（アドボカシーをする人）として活動していくことの重要性を説いている。

第3部は、具体的な解決策や戦略を提示している。女性コーチ育成のための

州／準州のコーチング協会、カナダ・ゲームズ評議会との連携を奨励する

- コーチへの復帰を支援する戦略を開発し、これを支援するために適用できそうな企業プログラムを検証する
- 地域の競技団体の意識強化を図る
- ジョブトレーニングと積極的な雇用へのアクセスを確実にする

潜在的な研究テーマ

戦略的シンクタンクは、いくつかの女性のためのコーチングプログラムに関わる組織の責任となりうる潜在的な研究テーマを確認した。それらには以下が含まれる。

- ナショナルチーム見習いプログラムとカナダ・ゲームズ見習いプログラムのコーチの経歴を追跡し、評価する
- 女性ヘッドコーチが女性アスリートをコーチへと導いているかどうかについて調査する
- コーチの男女比の変化が少女のスポーツへの参画数減少の原因になっているかどうかを調べる
- 女性コーチに指導されている女性アスリートのスポーツ経験、スポーツの価値に対する見方が他とは違っているか、他よりもコーチとしてのキャリアを目指す傾向が強いかを調べる
- カナディアン・インターユニバーシティ・スポーツ、カナダ大学競技協会、全国および州の競技団体の雇用政策について調査する。少女と女性にどの程度の予算が回っているか、重要なポジションや役員に女性何人いるかという問題を含める
- 選ばれた若い女性コーチの短期育成システムとして、全国女性コーチング学校再建の可能性を調査する
- ナショナルコーチ認定プログラムコンサルタントを通じて、各競技団体のための基準と適切な目標を設定する

国際的なイニシアチブ

以下の組織は、現在進行中の国際的な動きに関する情報を提供している。

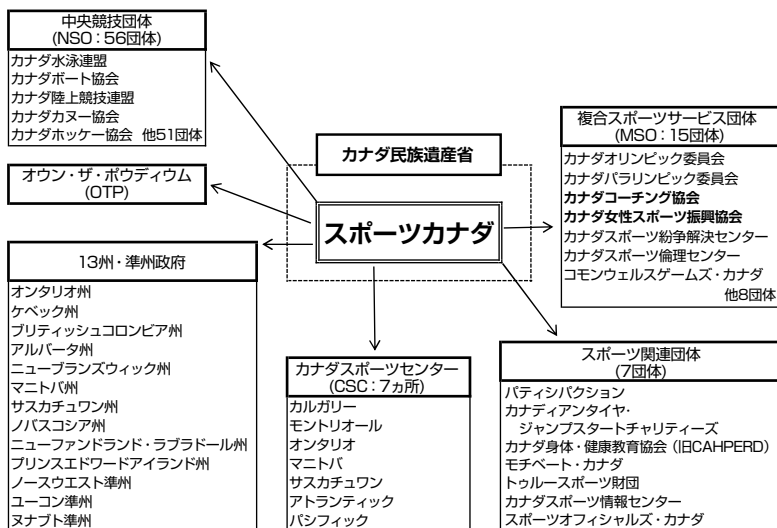


図1 カナダのスポーツ体制

出典：笹川スポーツ財団「文部科学省委託調査『スポーツ政策調査研究』報告書」2011より作成

も、早くから女性に特化した政策の必要性を自覚し、取り組んでいる国といえる。

そんなカナダが抱える、女性コーチや女性リーダーに関する問題点や課題、その解決策が、日本において参考にならないわけがない。カナダの先人のアドバイス、日本の女性スポーツに関わる一人ひとりが参考にすれば、今後直面する、または既に直面しているさまざまな壁を乗り越え、一歩でも二歩でも前に進むことができると確信している。本書は、日本の女性スポーツに関わる全ての人の手元に置いておくべき必読書である。

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所
副主任研究員 工藤 保子